墨夷應接録二篇

月

内閣文庫
和書
三一七三六
函 六 冊 號 類 架

備用 史料 41

内閣文庫
和
一八五 三一七三六
函 一四 六 冊 號 類 架

史七

内閣文庫
番號 和 31736
冊數 6 (5)
函號 185 340

国立公文書館
National Archives of Japan

墨夷應接録二篇

月

閑41

国立公文書館
National Archives of Japan

○嘉永七年寅五月八日伊達家御下屋敷浦々到着
御一行四寶福寺を御休館と致候
九日井戸端寺を御休館中国と到着
大寺を御休館と御一行
御一行

内閣文庫

○十日林寺を御休館と致候大雲寺を海蔵寺
備中守様泰平寺を御休館と御一行
橋寺を御休館と御一行
寶福寺へ御城詰御役人衆御対面

所城夕刻ニ成ル海面ヲ行ク清ラカニ美シキ山数ヲ見
ル事ヲ得ル山形高直ニ廣福寺ニ参詣ス本堂ハ大
覚寺清ラカ行ハ福多寺ニ比シ格段ニ入等
退散致ス

○十五日 雨ニ曇 堺港出ル所ヲ夕暮ニ雨ニ降ル出ル
廣福寺ニ皆ヲ会合ヲ為ス終夜行

○十六日 曇ル了仙寺ニ参詣ス道ヲ間違ヒ出来
ル所ヲ時ヲ経テ皆了仙寺ニ参集ス
ヒヲ市ヲ通リ浦ヲ市ヲ通ル家形

二艘沖ニ居ル孤ヲ乗ル沖ニ見ル所平壁程
莫ル事船二艘入津ス所ヲ一艘ニ
付キ乗ヘルリ高ク所ヲ一艘ヲ ミスシツヒヲ中ヲ行ク所ヲ
中ヲ森山茶ヲ出ス使ヲ行ク出ル時了仙寺ヲ
参詣ス所ヲ岡上ニ登ル所ヲ中ヲ所ヲ変ヘルリ所ヲ
ヲ十機ヲ所ヲ出ル使ヲ別機ヲ乗ル
○十五日 快晴 船出時了仙寺ヲ後ヲ出ル茶人
ヘントヲ市ヲ人参詣ス一晩行ヲ為ル所ヲ孤ヲ
ヲ所ヲ廣ル所ヲ中ヲ通ル時ヲ中ヲ出ル ヘント
ヲ中

右叶宮アータムスの
代り役ホ鍋屋藤ハ　九月時第人ヲ集国中ヲ示ス九月時
祝祭遊戯ヲ設ケヘルリ多分尾右九月
人ヲ多ク集ル　言葉ヲ
国中ヲ入ル大学医学ヲ始メ各ヲ始メ面倉野ハ　此ヲ
後ヲ続ミ上ル　初編と
国ヲ初学ヲ始メ面倉野ハ
大学医日横浜ヲ集ル　面ヲ
此ヲ第海ヲ渡ル　時候
ヘルリ日新ヲ行ヒ　事ヲ
ヲ了

ヘルリ日叶宮第銀ヘヲ示ス而彼方ハ扱ヲ
豆数ヲ清ル　地ヲ　此時彼後国ヲ
此方ヲ　先ヲ後扱ヲ　出ヲ後ヲ編ヲ
有ヲ宮ハ中ヲ
中地休息ヲ所ヘ
名播ヲ書ヲ五ヲ中ハ
右国港ヲ国ヲ漂杭ヲ浅瀬ヲ暗礁ヲ目印ヲ
建ヲ西ヲ彼ヲ印ヲ建ヲ　此ヲ
陽ヲ中ハ
大学医日横浜国ヲ漂杭ヲ建ヲ変ヲ印ヲ

右建造致候事ニ付而ハ我国の人ハ他国の者を建造候
右之儀無之候ハ 右漂流者ハ元漂流者ニ付
叶候ハ而ハ和国の者ハ建造致事ハ
ヘルリ曰左様ニ御座候ハ我国ニ者を乗傳
致候儀御流行自然ニ
此事を聞人建造致候儀者有之
大学様曰彼ハ左様ニ
亦根島ハ小島ニ付五人位ハ
右白き大船を持参候ハ一艘ハ
方角を知候ハ目当を建造致候
大学様曰唐国亦根島ハ
ハ物
右
陸地可有之ハ
ヘルリ曰左様ニ御座候ハ
陸地ハ迷惑致候
大学様曰是ハ陸地ハ

大学頭曰此度新に西洋書籍を出来候ハヽ西町の
分に学門を開き候哉学門に西洋弥利堅人慶応四
年迄ハ一年ハ
ヘルリ日上陸之節之商書摘譯仕候七月中旬
約除書面之儀載
紙四年之約除ハ
大学頭曰国書譯之儀ハ暫く約除
ハ決し約定書如ハ
得共今学分一国之事ハ書面
中出ハ学問之附属人ハ
四年分之紀和之他
建之節ハ
ヘルリ曰学門之儀ハ
学問之儀ハ
外に学問附属人
ヶ様既睦之
之附属人之
大学頭曰附属人之儀ハ弥利堅人不法之

と御指図を受け屋作仕り墓所地中に埋
め申候事を生業仕候者共に墓所を教方致し
候ハ者ハ其ハ人ハ他邦人に対し申候
を仕掛り申候者共に対し支配方
取扱申候事に付き支配方
取扱申候事に付き
取扱申候事
ヘルリ曰其儀伺の上御答
ヘルリ曰此地を墓地に
是ハ墓地に御指図
墓地に御指図
大学校曰墓地に御指図
致し申候者共
ヘルリ曰墓地に
大学校曰当春横浜に
寺墓地に
ヘルリ曰改葬に御指図

候之取扱方ニ而申上候　翌十四日於応接所目付　安藤傳蔵
弥利堅人両人ニ而相対候様　立合　衣笠操蔵　通詞　人立添
もし通詞之者共子細有之候ハヽ
昔日ヘルリ自分之肖像一枚并弥利堅国祖華盛頓
右様之図一枚持参いたし候　此様之事而之義有之候以
米建国縁起巨大之事共讃候而　右様之日本国之　右
外ニ也無之候ニ付何卒右可置候ニ付候　海浜
之在之候也申候
大学頭曰　当地之小民共漁猟を商業と致候故　皆多
鉄炮放発候得ハ漁猟難出来難渋致候間　鉄炮ハ相
止メ候様被致度旨申聞候処
ヘルリ曰　是迄一向不存候事ニ付　漸当地之人々ニ達候
居候得共ハ不都合ニ付為念申達置候ニ付　当地より相止メ候旨
申候　此後鉄炮ハ一切不撃候旨申候ニ付
此度鉄炮発射致候事ハ何分不相済事ニ候故　軍卒
調練致し候事ハ見合せ可申旨申達候処承知仕候旨　尤
人数之調練致し候迄ハ致間敷候　海岸之町内
一巡仕候者共之程ハ相申候
○十四日未刻時頃　旨ニ而仙寺え罷越候時分　供之者

ヘルリ陸奥十餘人を上陸可仙台人を
尚書翰を以仙台へ大槻の氏孔子ゝ伯耆
物を以て大学氏に贈答
孔子ゝ伯耆へルリ屋へ相附段一紙月紙
大学氏曰書を以十八月陸大統領より書面
を以て伊豆ゝ伯耆相撰成方より接拒中也
此段ハ昨日知ル段重ル
ヘルリ曰段ハ知ル
大学氏曰弥利堅国ゝ新世界地を発ス事此度ゝ條
約ゝ為書を以ゝ伯耆ゝ伯耆ゝ発ス事ハ邪教ゝ中書面
を以ゝ為ス段ハ此ゝ代段ゝ為ス人ゝ為ス伊豆
情実書面を以為ス段ハ
ヘルリ曰代ハ知ル段ル
大学氏曰先氏伊豆尚地ゝ為ス事ハ人名異
ゝ田鹿ゝ伯耆ゝ何卒保利堅ハ内ゝ連ル吉
四ゝ木ゝ伯耆ゝ伯耆ゝ為ス段ハ
此ゝ為ス段ハ変伊豆厳敬ゝ為ス為ス為ス為ス我ハ
形ゝ分ハ
ヘルリ曰ハ厳禁ゝ為ス伊豆ゝ為ス為ス為ス
通ル段ハ伊豆ゝ為ス我ハ義ゝ為ス為ス感心

呼出し候而右之者共江此節之儀ハ使節応接之振厳重ニ付
船ハ此度商船ニ而無之第一我国之人
民ニ対シ候儀ハ夷人ニ候ても日本之御国法候得者
其書面を差渡し日本人を連掛とハ法度ニ致
有之候ニ付偽り候儀ハ無之事ニ候処此度ハ
ヘルリ日本之儀ハ承知之由ニ而
我船の方へヘルリ又日ニ日本人を連帰り可申ニ而振法来し
船中ニ付而書面但ニ出振直ニ中之内意申出候
此方ニ而変来候書面を継合致候振厳重御座候而

国之法ニ而此度御用ニ相成候儀先達而我
国ニ掛り候ても他邦へ參り候事ハ夷人を連戻り事ニ而堅く致
禁し有之候間士官之者ニ法しても法を破り候事ニ而
不致候得共第一商船ニハ無之右様之事ニ信義
不申而已我国我法
厳重之書面認候而右法を破り候書面ニ而
不来ニ付而書面を拒候国法
法を破り候振此方面ハ
指上候而其節之儀内人厳禁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大学校曰先日拙者ニ[illegible]書

面を以申出候趣ハ[illegible]

先ニ来船シニウブライ船名ハ

グレイル名ハ 墨川船並ニ[illegible]中ハ為[illegible]国

軍船五艘浦賀ニ向ケ発船ス 一軍艦名フヒンセンス。ホル

ポス。ハンコク 蒸気船 。ケンチデ。クヘルヒヤ 大軍艦五艘

ヒヤ 蒸気船

大学校曰先日ハ国ニ帰リテ[illegible]ヒヤ蒸気船ヲ出シ

軍艦五艘浦賀ニ向ケ出帆ヒヤ蒸気船ハ横須賀ニ隠レ[illegible]

[illegible]ヒヤ蒸気船ハ浦賀ニ[illegible]

[illegible]

ヘルリ曰[illegible]

[illegible]

[illegible]

○十五日御刻より御登城仙台
陸奥僧ゟ八人来り
ヘルリ日時ゟ御呼出十八日後我国大統領より
書簡差出書翻訳文
御和蘭ゟ差出文
亜墨利加大統領より出張人来り御国
交易ヲ願ふ書簡差出
大学頭日本ゟ出
大学頭曰晃ゟ薩文差出
和蘭ゟ出張人来り此度ハ文差出
和文ニ而ハ
ヘルリ日御和蘭ゟ
大学頭曰当御国ゟ薩ゟ
御出張ニ中時ハ
ヘルリ曰当御国ゟ
ゟ薩ゟ及
ゟ御ゟ
ヘルリ曰日本国ゟ

之付ベントウリヤムス異人共申聞
大学頭曰 右段承知致候 然處夫々 役人共除之
し申候
此段御尋問付 当時御承知之通 右摩敷之色 御除せし 御座
時くして家之色 立帰り申候て 右者学問 修業 一向之分 段候
討りく 御之 節り 申付 其他ニ 同人 段御座 異人 異人之儀
役之く 右乍 同者 只今八 古書之 変有 究メ見 猶右
之儀 奉存 止 國 候 仕候 御座候 中論し
御座 同分 此方申候之付 地 被結 同 上之 御座申

延着ニ而茂之事ニ御座候哉 此段承り度 早速大学頭江
ヘルリゟ掛合申候
大学頭曰 麻利瑪人上陸之儀者 先ニ書出之通メ 可致
旨之御書 唯今 之異國共之 究而候之事ニハ 無之 申し候
此段ハ萬之使節ゟ申候 是之而事ニ而 猶更 右者 我国
学問之 修業 一向致方 無之 承り 異人之 右者 七重
ニ強異見究メ 御座候 猶又 申付 御座候哉 如何之事之候
ヘルリ曰 右者之 西洋 学問 修行之 積りニ 御座候 承知 覚 全
く異人之右 節り 而之 次第之 申候 御之 早速 呼寄 て

中略

時的ヘルリ書翰ヲ受取ノ後ヲ以テ
ヘルリ書翰ヲ受取ノ後ヲ以テ諸藩中ニ
も意見ヲ尋ネ人々ヲ集メ意見ヲ述ベシ中略
ヘルリ曰ク我モ公物所有ノ人ヲ以テ
ヲ中ニ納ル事ヲ願フ薩摩ノ人
充分ニ管理ヲ為ス他ノ藩ニ出張スル者ハ
第人中ニ他ノ者ハ出張スル者ハ
大学士曰ク薩摩ノ人充分ニ管理自分ニ
拵ヘ置ク四国ノ諸藩ハ
自分ニ管理ヲ為ス
ヘルリ曰ク我モ日本ノ管理ヲ為ス
致シ大ニ驚キ出ル中ニ全体ヘルリ
船ニ乗リ五艘ノ船浦賀ヘ来リ
兎角無意ニ居ル者ハ
大学士曰ク五艘ノ他ハ
ヘルリ曰ク軍艦ハ
一体何所カラ来ル王ノ本海道往来ノ船ハ

此度ハ陸路ハ山中付船ニ乗海ハ荒ク波高ク
光景実ニ壮観ナリ居船帆船五艘程ハ見ヘ
北地カンサツカ迄人家ハ見ヘス波ハ高ク
ナリタ刻ハ
臣敬

ホツトメンより第三日ニ山中ハ日ニ日ニ
寒人高屋敷ニ中ノ橋ヲ掛ケ重環ヲ掛ケ城
佩ハ一人城一段一段ニ階段ヲ登リ
屋迎ヲ段一ツ宿ハ内ニ常ニ珍味ヲ出ス段々階中ハ
○十吉雨ヲ冒シ人ハ休息ヲ
出ス
ヲ度ハ利国軍船一艘入津段一段会五艘ハ
船ニマセドニアトヤハ船ニアブボツトトヤハ
○十吉ハ何ヲ了仏寺ハ
スヘーデン」ユルリエジエ通ポツトメン氏三人
松村君ハ方ニ砂ヲ力石ヲ
陸ハ当時ヘルリ上陸
ヘルリ日記上陸里数ハ

大学氏曰[illegible]彼地[illegible]国[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]
ヘルリ曰[illegible]
[illegible]
大学氏曰[illegible]
[illegible]
ヘルリ曰[illegible]建[illegible]
ヘルリ曰[illegible]商船漁船[illegible]上陸[illegible]

坂土場(ハトバ)ヨリ[illegible]
[illegible]
大学氏曰上陸[illegible]
港内の中央[illegible]山[illegible]
[illegible]
ヘルリ曰[illegible]
大学氏曰[illegible]
[illegible]上陸[illegible]出入[illegible]
ヘルリ曰[illegible]

大学校曰ク玉人土偶ニ即チ武高ニ白倫町ニ[illegible]アリ
人部ハ之ヲ可分
ヘルリ曰ク男子モ精ニ亦付ス
ヘルリ曰ク上陸ニ際シ乱暴ヲ休息ス
ヘルリ曰ク自然人部ニ[illegible]ス
[illegible]
大学校曰ク男部ニ[illegible]ニ[illegible]ス
多奇[illegible]ス
ヘルリ曰ク[illegible]アリ

ヘルリ曰ク[illegible]一覧[illegible]ス
[illegible]
[illegible]大高山ニ[illegible]ス
[illegible]
[illegible]
[illegible]
ヘルリ曰ク高山ニ煙出ル故ニ[illegible]
地理ニ[illegible]ス
[illegible]
[illegible]

英佛日夫ヒ何の百四十年ニ至リ始テ我ニ来ル
者ハ自分ニ支配スル所ノ地ヲ攻撃シ本年ニ
至リ他ノ諸ヲ攻撃シ又其他ノ諸ヲ攻撃シ
終ニ敵ヲ大略自分ニ支配ス其他ノ諸ヲ
攻撃シ終ニ敵ヲ攻撃シ其他ノ諸ヲ攻撃シ
其他ハ先ヲ見ルニ如クハ無カラン
ヘルリ曰本邦西洋ノ諸ヲ攻撃シ終ニ
西洋ニ至リ終ニ敵ヲ攻撃シ其他ノ諸ヲ攻撃シ
我西洋ニ於ケハ窮理ニ学ヒ戦術ニ分ニ至ル中ニ大ニ窮理ニ
研究シ

何レの地ニ於テ孫子ノ書ヲ講シ而シテ戦争ニ
お家ニ敵ヲ防ク為ニ窮理ニ研究シ決シテ
新ニ山中ニ於テ新ニ発明ス窮理ニ学ヒ明
新ニ機ニ四方ニ先ス又秘ニ中ニ至ル
中国ニ於テ新ニ学ヒ
大学ニ曰物ニ格シ知ヲ致ス物人ニ若ル事
物ニ於ハ人ニ於テ新ニ学ヒ
此事ニ人上達ニ長ス故ニ
以来ハ決ス新ニ機ニ研究ス

ヘルリ左右ニ顧ミテ何ノ国ノ船ニテ何ト問フ曰ク武州ノ
ものなり其事ハ全ク仏教ニ拠リ環鎖ヲ以テ鎖国ノ義ハ
仏法ニ於テハ不ル可ラス何ノ故ニ其ハ中ニ光明ヲ放チ
第一番ニ来ル者ハ白ク第二番ニ来ル者ハ夕刻ニ来ル者ハ
数ヲ為シ残ル者ハ仏教ニ通ジテ自然ノ時ニ来ル
此ハ神明ノ教ヘ人ヲ大陸ニ及ボス大陸ハ西洋人ヲ
相撲ヲ使用シ一番ニ勝チ品川ニ来ル者ハ長崎及ビ浦賀
ノ両港ニ於テ此地ニ来ル者ハ金環ヲ奪ヒ取リ後ニ来ル者
ハ浦賀ニ於テ新ニ来ル者ハ正面ニ相撲ハ使ヲ陸ニ却ル
○十八日伊勢ノ国ノ人ニ出会ヘリ 以下五人上陸ス一ハ
時ニ徳川ノ正面ニ来ル者ハ推会ヲ求メ片付ケヘルリ
ヘルリ曰相撲ノ門ノ西ニ来ル者ハ何ノ為ニ
答ヘテ曰ク然ル拒絶ノ者ハ光明ヲ放チ来ル時ハ
来ル者ハ数ヲ為シ残ル者ハ仏教ニ通ジテ人ヲ使ヒ
来ル者ハ数ヲ為シ残ル者ハ拒絶ス 省略
大学ニ曰ク物ヲ使ヒ時ニ用ヒ第一ニ為ス者ハ
少陵ノ子ノ為ニ来ル者ハ人上陸シ曰ク拒絶シ

[illegible]

ヘルリ曰[illegible]

[illegible]日[illegible]

ヘルリ曰[illegible]

ヘルリ曰[illegible]山野[illegible]

[illegible]十里[illegible]

[illegible]

[illegible]

大[illegible]日[illegible]

[illegible]

[illegible]

地[illegible]

[illegible]

ヘルリ曰[illegible]

三月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

尤右異人江渡し置候ハヽ其旨申達
異人承伏辨論致し候
猶又去ル浦日米館応接所江罷出候ハヽ先刻大学頭
申聞候趣ニ付申渡候處異人共申候ハ強而兎角
無余儀事ニ候得共併此度申談候ハヽ去ル三月
十五日御申談之儀ハ致承知候得共其段申上候
申候事故何之御沙汰ニ候哉
ヘルリ日本通り理屈申立候而ハ大学頭江申述候へ共都而
御免申上候得共付而ハ当方ニも然ル處　以上申候ニ付右異人共申聞候ハ再尋候處
右ニ付支配勘定力石勝之助申渡候ハ異人共申聞候趣書面差出候様申渡
一通り致し候様其外不申聞候得共大凡之處異人江渡し置候

異人江
答
右四月朔日之趣日米館応接所ニ而御申渡候處三月十五日
申候事強而所望之事ニ付中略候ニ付而通達候ニ付候得共承知可致
候得共勘弁之儀申候
子ヘルリ通詞ポウトメン併此度再応申候處日本
許可ニ相成候而も其方より相成候而御用人数別紙之通名前
御座候十二日迄申渡候
合衆国船将異人之名前申聞候
大学頭殿大学頭回覧
之趣申候

[illegible]

此所ニ彼ヲ使ハシ[illegible]

上陸セシ一日後の後刻ヨリ[illegible]

ヲ[illegible]彼ハ[illegible]入費[illegible]

大[illegible]居出[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]大[illegible]

[illegible]方金[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]

ヘルリ曰ク[illegible]

[illegible]彼ハ[illegible]

[illegible]人ヲ[illegible]

[illegible]地[illegible]

大[illegible]

[illegible]全通[illegible]

大[illegible]曰通[illegible]

[illegible]

[illegible]

ヘルリ曰[illegible]

右艦之義ハ亜米利加ゟ我国へ渡来之羅森と
申支那人居て亜墨利加人ニ付添候処通弁致居候羅森ニ尋候也と
申者之中ニ者彼地ニ而時々諸々之事共より亜墨利加之儀
海ニ入候処一筆令啓上候此儀より度々会得候
水の流之如く誠ニ其外中ニ而有之候羅森儀ニ
成候ニ付候而亜墨利加何分ニも此者之通弁ニ而
至中ニ而八決而無之由相文字能く承り候ニ付
江戸ニ而亜墨利加之事ニ付数十日を経而通辞及候
此者亜墨利加之儀申立候ニ付同人ハ格別十日余も罷在

此度ハ其外ニ於而唯今此度ニ而候ニ付而は夫々承り候
右ニ付此者日本ニ而英字並ニ漢字相認候由申立候
此者ハ此度右様之儀ニ付此度一向ニ相成有之候様ニ申候
大学頭日本之身分重立候者往来致し此段ハ候得共
之者多く引連渡海之砌も此度之義及相成数十日も
右様之始末ニ而彼地渡来御座候者之絶無之様
無之候得共右様之者ハ無之ニ付此度も相成申候　此時ヘルリ国
迫之様子ニ而大息致し
可哭之様子ニ候
ヘルリ亜墨利加合衆国を示し指さして日何分

上陸罷在候而ハ宜からさる人々ニ候
大学頭曰上陸之地者里程を以限り可申遣ニ
決し申候
ヘルリ曰しからハ一里程ニ而も支那中ニ而ハ蘭地之分
七里ニ御定り之処ニ当而者相済地ニ而当支同様ニ御取極被下度
当方ニ而蘭人ニ長崎ニ而ハ相定七里ニ限り候事ニ
有之
大学頭曰此方ニ而も精細相分り申候ハヽ三里ニ可
定申候決し候事ニ致約束

ヘルリ曰右様之儀ニ付而ハ何れ之事ニも議論起り候中ニ有之候儀ニ付
掛合致し度此方之願之通り御承知被下候ハヽ難有仕合ニ奉存候
可致上陸場所之儀上大統領ゟ申付置候而三里之義ハ承知仕候
承知も致し候而御定之義三里と申処ニ而御承知之儀ニ付
来年三月頃ニ至り蘭人渡来致し軍艦数艘引連浦賀
表江出帆ニ而論判之処ニ候得者此節之事ニ而無之ニ付條約之通
湊入致し候ハヽ一同掛合被下候而其段ニ相成候事ニ候
候ニ付而ハ右之場所江端舟を以同様ニ而御取計ニ相成
決し候御座候五里と申儀承知候様大統領

山部宿ヨリ中宿メ[illegible]
浦賀ヘ[illegible]五里ニ[illegible]
火[illegible]日[illegible]
[illegible]
火[illegible]日[illegible]大統領[illegible]書簡中ヲ[illegible]
[illegible]
[illegible]寺院[illegible]書籍[illegible]
置[illegible]書籍[illegible]
禁[illegible]國法[illegible]焼捨[illegible]

中[illegible]
ヘルリ[illegible]
[illegible]
[illegible]焼捨[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]
大[illegible]日[illegible]
[illegible]

可ラサル義ニシテ又ハ彼人ヲ殺害シ
義務ヲ及ボサル彼ヲ此ニ留置シ
此ヲ中途ニ放置シ
ヘルリ曰ク彼ヲ殺害シ彼ヲ疾病ニ中毒ス
可ケン
ヘルリヨリ第三ノ問ヒ日本人ヲ捕ヘ
ヨリ逃亡シタル者ハ如何
第四ノ問ヒ国ヲ第三ノ問ヒ赤ハト
ホツトメン笑ヒ中ハ時春画ヲ持来リタル者ハ

多分成ラン云ヒ此ノ時ハ
市中ニ多ク舟ニ乗リ行キ春画ヲ
貴人ヲ乗ケ物ヲ中ル
ヘルリ曰ク象ヒ軍船五艘四年前ニ
ヲ市内分ケ方ニ和蘭ノ長崎ノ
乗ル者ヲ多ク
大学ノ日ク我ヒ人ヲ流人ヲ
ヲ和蘭流カビタンヲ
中ハ尚時ニ人ヲ
ヘルリ曰我ヒ漂民ヲ

可致候

大学頭曰致承知候　書面取調差出し可申候　書面ハ伊沢

并　林　舍晴　書付渡ス

夕刻迄数書面并答書

昨日ゟ留置き右本海岸之警衛手間取委細相済

湊を取出し大様子相伺ひ　上書を以

既ヘルリ江此書を申渡候　更ヘルリよりペンント上申候

此くペンント早速ニ相渡し　夜三人右何事船之返事

日暮方ニ至　夜[illegible]皆　テガヤアシガセ 桎梏を掛[illegible]

仕置[illegible]なりとの申聞候

○十九日此度目付[illegible]会[illegible]三郎ヘルリ船へ

参り條約之書面を取繕メ申候且時ニ申渡[illegible]書

翻訳[illegible]書面[illegible]案文[illegible]渡しヘンントへ渡

相渡し申候

○廿日大学頭始皆々宝福寺へ集会評議致し申候其皆

右昨日條約之趣了仙寺へ異人スヘーデン。エルリエ

ジエ。ホツトメン等来り勘定之儀論判有之候

○廿一日大学頭始[illegible]皆午後了仙寺へ会合

[illegible]時ホウハタン船へ[illegible]

一昨夜雨気有り其人大勢おく帆縄に気り
お拾ひ拾ひ取り見セ申ハミシスシツビ長一丈二
寸程の鱶を獲ア不ホトと申ス此地南海に
おゐて獲人寄生致おく熊野灘 有名なお船人
呂宋寄生致人を生捕人呂宋に居申ハ唐
本船乗ハ利助人六郎中一人少年ニ名ゆ
此方に居人一名平戸ゆ乗ル名 帰国ハ拾ひ見ル
明日ハ本船帰国ハ拾ひ見ル
居申ハ至細至所中ニ名ニ成ニ大国ハ唐ニ出

おく鉄砲人を多くおく陸ゆ上風海人を喰ひ
ゆ之ゆ 去 古史彼の少年ニ名時字 時 序く出る
主直ニ喰ニ成ニ成一ニ時時ハ俗ニ中時ハ
鉄ゆ育ゆ夕刻言葉器 見物
夜ゆ入ル 格鉄人 ゆ
○廿二日ゆ俗ゆ仙寺人皆ニ名一 ヘルリ上陸ニ名 俗
書面ハ文ゆ無ハ文ゆ中ハ
○廿三日 乗人面名 上陸ハ 巡 地山 移
ニ名を巡見 一 ハ 俗ニ名 通有 移ハ長 通

[illegible]

[illegible]

○廿四日 陳約書[illegible]

身上隆[illegible]

仕[illegible]

○廿五日 陳約[illegible]

ヘルリ[illegible]快身上隆[illegible]

三人[illegible]陳約[illegible]

ヘルリ[illegible]書[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○廿六日 ヘルリ全快[illegible]

[illegible]上隆[illegible]

ルリ[illegible]

拂暁ニ出帆ス　陸中ニ日ヲ経テ　ホツトメンヨリ
陸ヘ日本漂民一人ヲ送リ来ル　日本医師吉雄
中ノ助ホツトメン中ノ者ヲ傷ハシタル　ヨリ
送状ヲ取ル　夜中ニ

○廿七日　佳ク晴　第三ノ巡船ヘ漂民ヲ送ル　ホツトメン
ヘ陸ヘ上ル　漂民ヲ見ル　唐人　日本人　中ノ者ヲ
ヲ見ル　唐人ハ中ノ者ヲ　ヨク知リ　ヨク
亜亀利加ヘ　来ル者ニ　中ノ者ヲ　ヨク知リ
ヲ陸ヘ　ヲ陸ヘ　ホツトメン中ノ者ハ　ヒ来ル

教ヘ来ル　成ル　日ノ理ヲ　ヨク　第
日陸ヘ　新ヒ　陸中ノ　ヨリ　陸ヘ　ヲ陸ヘ　ヒ　ヘル
ヲ　船ヲ　食料ヲ　ハン　我　一番　ヲ　船
○廿八日　宗福寺ヘ　陸ヘ　来ル　来ル　番船　陸ヘ　ヲ
ヨリ　中ノ者　乗船ノ　出帆　亜亀利加　二艘　軍船
二艘　港ヲ　出ル　沖ノ　来ル
○廿九日　風ヲ　乗船　帰ル　泊ノ　出帆　第　船
井戸　対馬ヲ　出ル　陸ヘ　ヲ　宗福寺ヘ　来集
ノ　ヨリ

○六月朔日古賀氏出立路柿崎村へ寄宿
四艘遣帆を揃ヘ煙を焚一灌を出
中山
○二日弼藩軍船一艘出帆以前弼藩武器の輔
佐藤出立引渡井澤弼藩乱妨を出立

内閣文庫圖書

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan